

日本人大学生と中国人留学生の結婚観の比較

柴原直樹・遠藤正雄・石井恒生・田仲由佳

Comparison of Views on Marriage between Japanese College Students and College Students from China

Naoki SHIBAHARA, Masao ENDO, Hisao ISHII and Yuka TANAKA

The purpose of this research was to examine differences in the views on marriage between Japanese college students and college students from China. In total, 90 Japanese and 110 Chinese students participated in the research, where the views on marriage were measured by 10 questionnaire items created by the authors. The results revealed some different views on marriage between two nations as well as a gender distinction, reflected by the differences in the levels of ego states and in the feelings of worth-living.

Key words : Views on marriage, college students, cross-culture

結婚観・大学生・異文化

はじめに

かつて、哲学者ソクラテスは「良妻を持てば幸福になれるが、悪妻を持てば哲学者になれる」と語り、詩人バイロンは「ずいぶん敵を持ったが、妻よ、お前のようなやつははじめてだ」と皮肉ってみせた。結婚を期に女性は変貌するのだろうか、あるいは結婚後の男性の態度が妻をそうさせるのだろうか。

そもそも結婚とは何か。憲法24条には「婚姻は両性の合意のみに基づいて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により維持されなければならない」と明記されている。まさに、愛情に基づく夫婦中心の家族生活の開始が結婚であると言えよう（柏木・大野・平山, 2006¹⁾ 参照）。し

かし、結婚により成立する夫婦関係は恋愛中の男女の関係と同等のものではない。何故なら、恋愛と異なり結婚は生活であり、まさにフランスの彫刻家、ロミュブリュスが指摘したように「男と女が結婚したときには、彼らの小説は終わりを告げ歴史が始まる」からである。

伝統的に、日本では結婚生活における夫婦間の役割は分業体制にあった。その中で多くの夫は仕事中心で家庭を顧みず、妻の家事育児による疲労やストレスに対し精神的なケアを怠ってきた。しかし、これは日本に限ったことではなかったようだ、一方でD・デックス^{注1)}が「女には、どうしてもわからないテーマが一つある。男は仕事に注ぐだけの熱情をなぜ家庭に注げないのか、ということだ」と

不満を漏らし、他方でヘレン・ローランド^{注1)}は「結婚する前、男は恋人の言った言葉を夜中にあれこれと考えて一晩眠れずに過ごす、結婚した後は、妻の話がまだ終わらないうちに眠ってしまうものなのです」と嘆いたように、夫婦生活の危機がそこには存在していた。しかし、少なくとも日本において夫婦関係が維持できたのはいわゆる「世間体」と、女性が経済的に独立することが困難であった時代背景がある。

しかし、近年この事態も熟年離婚という形で一変した。さらに結婚そのものに対する考え方も変わってきた。これには、女性の高学歴化に伴う就労率の上昇によって、女性自らが経済力を持つようになったのと同時に、男性も全自動の家電製品やファースト・フードあるいはインスタントや冷凍食品などの出現によって、いわゆる「母親代わり」の妻を必要としなくなったことが影響しているものと思われる。その結果、結婚は「しなければならぬ」ものから「してもいい」あるいは「しなくてもいい」ものへと変化し、これが晩婚化や非婚化へとつながり、少子化という現象に至ったと考えられる（柏木、2003²⁾参照）。

少子化現象と結婚観

日本における年間出生数は1975年以降毎年減少し続け、1991年からは増減と減少を繰り返しながら緩やかな減少傾向となっている。合計特殊出生率を見ると、1975年に2.0を下回ってから減少傾向となり、2005年には1.26まで落ち込んだ。2010年には30～40代の高齢出産の影響で1.39と微増傾向が見られたが、2011年は横ばい状態である。これに対し、中国の合計特殊出生率は1.18とかなり低いが、これは中国における「一人っ子政策」による影響と見なすことができる。

日本では少子化対策が中国では少子化政策

（一人っ子政策）が進められている中^{注2)}、両国の大学生の結婚観はどのように変化しているであろうか。柴原・遠藤・石井（2011³⁾、2012⁴⁾）による日本人大学生と中国人留学生における生きがい感および自我状態の比較研究から、中国人留学生の人生を楽しみ好奇心や積極性に富み、目標を高く掲げ理想を追求することで自身の存在価値を高めたいという欲求を持つ性格像が明らかになった。これに対し、日本人大学生は現状に満足し、従順で素直であるが主体性に欠け周囲に合わせようとする特徴が見出された。このことから、日本人大学生と中国人留学生との間に結婚観においても差が存在するのではないかと推測できる。

では、日本における最近の結婚観とはどのようなものであろう。2010年に実施された国立社会保障・人口問題研究所による第14回出生動向基本調査（2011年発表）によると、「いずれは結婚しよう」と考える未婚者の割合は、男性86.3%、女性89.4%であった。また、「結婚したいと思う年齢」は上昇傾向にあり、その平均年齢は男性30.4歳、女性28.4歳で、結婚相手に年齢の近い者を選ぶ傾向もみられた。「希望する子どもの数」の平均は、男性2.04人、女性2.12人で、男性は男児を女性は女児をより多く希望する傾向も明らかになった。さらに、「結婚相手に求める条件」において「家事・育児の能力」が男女とも重要度を増し、特に女性は相手に「経済力」「職業」を求める傾向が強まったことも示された。ただし、この調査の対象は18歳以上35歳未満の未婚の男女であるため、20代前半までの大学生の結婚に対する意識とは当然差があるものと思われる。

そこで、本研究において日本人大学生を対象とした結婚観についての調査を行うと同時に、中国からの留学生の結婚観と比較するこ

とで、両者の間にどのような違いがみられるか検討することを目的にアンケート調査を行った。

方 法

対象者 K大学の日本人大学生、K大学およびN大学の中国人留学生を対象とした。日本人大学生90名（男性47名、女性43名）、中国人留学生110名（男性60名、女性50名）の計200名が調査に参加した。平均年齢は日本人大学生が20.1歳、中国人留学生が23.8歳であった。

調査時期と調査方法 授業時間を利用し、2013年4月に実施した。調査対象者に結婚観に関するアンケート用紙を配布した後、記入方法を説明し、各項目について回答を求めた。アンケート用紙は、調査終了後にその場で回収した。

調査項目 ①結婚願望の有無、②希望する結婚年齢、③家事・育児の分担、④性別役割分業の賛否、⑤恋愛相手を結婚相手と見るか否か、⑥結婚相手に対する希望条件、⑦子どもを希望するか否か、⑧希望する子どもの数、⑨「結婚」に対する連想語、及び⑩「あなたにとって結婚とは何か」の計10項目について回答を求めた。ただし、女性に対して「結婚後の仕事の継続」に関する質問項目を加えた（資料1を参照）。

結 果

まず、表1に「結婚願望の有無」について示す。日本人大学生1名（女性）および中国人留学生10名（男性6名、女性4名）が既婚者であったため、彼らのデータはその後の分析から除いた。「結婚したい」あるいは「どちらかといえば結婚したい」を選択した場合

表1 結婚願望の有無（人数）

	日本人大学生		中国人留学生	
	男性	女性	男性	女性
①結婚したい	34	26	43	31
②どちらかといえば結婚したい	10	14	4	9
③どちらかといえば結婚したくない	1	2	2	2
④結婚したくない	2	0	5	4
⑤既婚者である	0	1	6	4

表2 希望する結婚年齢（人数）

	日本人大学生		中国人留学生	
	男性	女性	男性	女性
①10歳代	0	0	0	0
②20歳～24歳	17	10	0	4
③25歳～29歳	21	27	24	26
④30歳～34歳	5	2	20	9
⑤35歳～39歳	1	1	3	1
⑥40歳以上	0	0	0	0

を結婚願望ありと考えるなら、日本人では男性の93.6%、女性の95.2%が、中国人留学生では男性87.0%、女性87.0%が将来結婚を望んでいた。その中で、「結婚したい年齢」は性別に関わりなく日本人大学生、中国人留学生ともに20歳代後半が最も多かった。次に多かったのが日本人大学生では20歳代前半、中国人留学生で30歳代前半であった（表2参照）。

次に、家事・育児の役割分担では、性別および国籍に関わりなく「主に妻が行うが夫も少しは手伝う」が多く、「半々」がこれに続いた。特に、「主に妻が行う」ことを選択した割合は日本人女子大生が一番高かった（67.5%）。中国人男子留学生以外は「妻がすべて行う」あるいは「夫がすべて行う」を選んだ者は皆無であった（図1参照）。

また、性別役割分業に対する賛成・反対の割合は、 χ^2 検定の結果、日本人大学生では男性に比べ女性の方で「反対」が多かった（ p

<.01）が、中国人留学生では性差は見られなかった（ $p = .47$ ）。特に、日本人女子学生で「反対」が80%という高い率を示したことは、「家事・育児の役割分担」で67.5%が「主に妻が行う」とした意見と矛盾するようでもある（表3参照）。

さらに、結婚後の仕事に対する女性の回答は、日本人女子大生の場合は「定年まで続ける」が最も多く過半数を占め（52.5%）、「子どもができたなら辞める」がこれに続く（25.0%）。中国人留学生では「定年まで続ける」、「子どもができたなら辞める」が共に40%であった（表4参照）。

「恋愛相手を結婚相手と見るか否か」についての結果を表5に示す。「同じ」と回答した割合は、男性の場合、中国人留学生で83.6%、日本人大学生で61.4%となり、中国人留学生の方が有意に高かった（ $\chi^2 = 5.16, p < .05$ ）。他方、女性では中国人留学生の68.6%が、日本人大学生の56.4%が「同じ」と回答

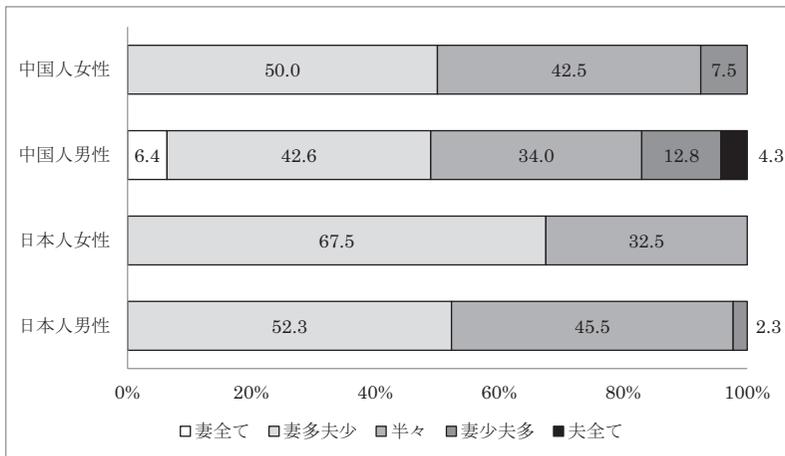


図1 家事育児の夫婦間での分担

表3 性別役割分業に対する賛否の人数（括弧内は%）

	日本人大学生		中国人留学生	
	男性	女性	男性	女性
賛成	21 (48.8%)	8 (20.0%)	20 (42.6%)	14 (35.0%)
反対	22 (51.2%)	32 (80.0%)	27 (57.4%)	26 (65.0%)

表4 結婚後の仕事に対する考え（女性のみ）

	日本人女性（40）		中国人女性（40）	
	人数	%	人数	%
定年まで続ける	21	52.5%	16	40.0%
子どもができたなら辞める	10	25.0%	16	40.0%
続けたいが仕方なく辞める	7	17.5%	4	10.0%
仕事を辞め専業主婦になる	1	2.5%	1	2.5%
無回答	1	2.5%	3	7.5%

したが、両者の間に有意な差は見られなかった ($\chi^2=1.16, p=.28$)。

また、「結婚相手に対する希望条件」については、国籍や性別に関わりなく第1位に「人柄」が選ばれた。第2位に選ばれたのが中国人留学生の場合、男女とも「共通趣味」であった。中国人留学生の場合、この「共通趣味」は男性では第3位にも選ばれている。また、中国人女性では第3位に「経済力」がくるが、この「経済力」は第1位に選ばれたものの中で2番目に多かった。これらのことから、中国人留学生は男女とも「人柄」や「共通趣味」を重視しているが、特に女性は「経済力」も大切な結婚条件の一つと考えている。他方、日本人大学生の場合、男性では第2位および第3位に「容姿」が、女性では第2位に「経済力」、第3位に「家事育児」が選ば

れた。この「経済力」は、第1位に選ばれたものの中で2番目に多かった。この結果から、日本人の場合、男子大学生は「人柄」だけでなく「容姿」を、女子大学生は「人柄」および「経済力」を重視するとともに、「家事育児」も夫に期待していることが推測される（資料2参照）。

子どもに関する質問では、結婚後「子どもを希望する」と答えた割合は日本人大学生の場合男女とも100%、中国人留学生では男性95.7%、女性97.5%であった。その場合、「希望する子どもの数」の平均は、日本人では男性2.36人、女性2.43人、中国人では男性1.89人、女性1.95人であった（表6参照）。2（国籍：日本・中国）×2（性別：男・女）の分散分析の結果、国籍の主効果のみ有意であった ($F(1,161)=23.73, p<.01$)。

表5 結婚相手と恋愛相手は同じか否か（%）

	日本人大学生		中国人留学生	
	男性	女性	男性	女性
恋愛=結婚	61.4%	56.4%	83.3%	68.6%
恋愛≠結婚	38.6%	43.6%	16.7%	31.4%

表6 希望する子どもの数（括弧内は%）

人数	日本人大学生		中国人留学生	
	男性	女性	男性	女性
1人	1(2.3%)	1(2.5%)	10(21.4%)	5(12.5%)
2人	27(61.4%)	27(67.5%)	29(61.7%)	29(72.5%)
3人	15(34.1%)	8(20.0%)	5(10.6%)	3(7.5%)
4人	1(2.3%)	2(5.0%)	0	0
5人	0	2(5.0%)	0	0
無答	0	0	3(6.4%)	3(7.5%)

「結婚に対する連想語」で最も多かったのが、日本人男子大学生では「愛」であり、日本人女子大生および中国人留学生では「幸せ・幸福」となった。また、2番目に多かったのは性別・国籍を問わず「家庭・家族」であった（表7および資料3参照）。

最後に、「あなたにとって結婚とは何か」の問いに対する回答を資料4に載せる。中国人留学生にとって「結婚」とは「愛する人と幸せな家庭を築く」ことであり、それはまた共同生活を営む上での「責任」でもある。他方、日本人にとってそれは「共に支え合いながら生きていく生活」に向かって「新たなスタート」を切るための「人生の分岐点」あるいは「折り返し点」を意味する。ほとんどが「結婚」を肯定的に捉えているが、「永遠の縛り」「不自由」（日本人男子大学生）、「妥協の連続」（日本人女子大学生）、「多少の恐怖感」（中国人女子留学生）といった否定的な回答も僅かであるが見られた。

考 察

①結婚願望および希望する結婚年齢

本結果から、日本人大学生の結婚願望は中国人留学生よりもやや強く、希望する結婚年齢も中国人留学生に比べ若い傾向にあることが分かったが、両者の間に平均年齢で3.7歳の開きがあることがその原因の一つかもしれ

ない。しかし、疋田（2008）⁵⁾による報告では女子大生の84.3%、男子大生の79.2%が結婚願望有りであり、逆に中国人留学生と比べてやや低い傾向にあった。むしろ、18歳以上35歳未満を対象にした国立社会保障・人口問題研究所が発表したデータ（男性86.3%、女性89.4%が結婚願望有り；希望する結婚年齢は男性30.4歳、女性28.4歳）の方が中国人留学生のものにかなり近い。今回の調査で得られた、日本人大学生の結婚願望が比較的高いレベルにあり、結婚も大学卒業後から20代後半を希望する者が多いという結果は、調査対象が福祉系の大学生であったことがその一因であるかもしれない。この点に関し、今後の検討が必要である。

②家事・育児の分担および性別役割分業

Hochschild（1986）⁶⁾は、夫婦間の家事・育児の役割分担に対する考えかたを①伝統型（いわゆる性別役割分業型）、②移行型（男は仕事、女は家事と家事に負担のない仕事）、③平等型（お互いの仕事を尊重し、家事も平等に行う）の3つのタイプに分類した。日高（1995）⁷⁾による女子短大生の調査では、この「男は外、女は内」といった伝統型に対して「賛成」「どちらかと言えば賛成」が51.2%、「反対」「どちらかといえば反対」が42.8%で、やや賛成派が上回った。その後の調査で、安藤（2002）⁸⁾は、この伝統型に対し「賛成」あるいは「仕方がない」と考えている女子大生は42.7%、「反対」は57.3%であ

表7 「結婚」に対する連想語

	日本人大学生		中国人留学生	
	男性	女性	男性	女性
第1位	愛 (25.6%)	幸せ (25.6%)	幸せ (29.7%)	幸福 (43.8%)
第2位	家庭 (16.3%)	家庭 (23.1%)	家族 (16.2%)	家族 (9.4%)

ることを示し、反対派が賛成派をやや上回った。さらに、正田（2008）⁵⁾による男女を対象にした最近の調査により、「男は仕事」「女は家庭」という伝統的な考えに対し、「反対」が女子大生77.1%、女子短大生73.8%となり、反対が多数派になったことが分かった。また、男子大生の53.2%が反対を表明しているが、女性との間には大きな開きがあることも明らかになった。

本結果によると、「性別役割分業」に反対する日本人の女子大生の割合は80.0%、男子大生の割合は51.2%であり、正田（2008）⁵⁾によるデータとほぼ同じであった。また、中国人留学生では女性の65.0%、男性の57.4%が反対しているが、特に女性の場合、日本人大学生に比べて中国人留学生の方が15%も低いのは、彼らが保守的な傾向から脱却する途上にあることを意味しているのかもしれない。結婚後の仕事に関しても、「定年まで続ける」が日本人に比べ12.5%も低く、逆に「子どもができたなら辞める」が15.0%も高かったのもその表れと思われる。他方、「性別役割分業」に反対する男性は中国人留学生の方が日本人大学生よりも6.4%多かったが、親元を離れ自活生活をしていること、飲食店でのアルバイトや中華料理そのものが男性的であることなどが影響しているのではないだろうか。

このように、日本人男子大生の半数は「性別役割分業」に反対はしているものの、女子大生に比べるとその率はまだ低い。これについて加藤・齊藤・林・堀井（2001）⁹⁾は、成人前期の男性は、一方で女性に対し女性らしさ以外の価値を求め、他方で結婚したら仕事を辞めて欲しいという伝統的価値観を有しているため、彼らの意識は保守性と革新性の間で揺れ動いているためではないかと考えている。中国人留学生の男性も半分強（57.4%）

が反対しているが、女性（65.0%）との間には有意な差はみられなかったことから、加藤らの指摘する「保守と革新」の間の動揺という考えが必ずしも中国人留学生に当てはまるとはいえない。今後の検討課題である。

他方、柏木ら（2006）¹⁾は、日本人女性是一般論として性別役割分業的な価値観を否定しているが、無意識ではそれを期待し、経済力を相手に求めているところがあると指摘している。女子大生80%が性別役割分業に反対しているが、家事育児に関して67.5%が「妻が主で夫が少し手伝う」を選んだという本結果もこれを支持している。同様の傾向が中国人女子留学生にもみられるが、日本人女子大生に比べてやや弱い。

③恋愛相手を結婚相手と見るか否か

日本において、1960年代までは「結婚の前提として恋愛がある」という考えが一般的であったが、1970年代以降は男女交際を楽しむ社会的風潮や経済的余裕により、その考え方は風化していった（柏木ら、2006¹⁾）。正田（2008）⁵⁾によると、実際にこの考えに賛成する女子大生は18.1%、女子短大生は22.4%、男子大生は29.9%であった。これは、女性の方が結婚に対して理想が高く、妥協したくない傾向を示している。逆に、男性は「恋愛」の延長に「結婚」があると考える傾向がまだ残っているものと思われる。

本調査で、日本人男子大生の61.4%が女子大生の56.4%が、中国人留学生の男性83.3%、女性68.6%が恋愛相手を結婚相手とみているという結果が示されたが、これは正田のデータとかなりの開きがある。また、男性の方が女性よりも、日本人大学生よりも中国人留学生の方がこの考え方に賛成する割合が高い。

日本人で5割以上の学生が「恋愛＝結婚」と考えていることは、最近、異性と付き合っ

ている大学生の割合が低下してきたことと関係があるかもしれない。実際、国立社会保障・人口問題研究所（2011）は、「交際している異性はいない」と回答した割合は男性で61.4%、女性で49.5%と増加の傾向にあることを報告している。結婚を意識し始めた時に、結婚したいと思う相手と付き合う傾向の表れかもしれない。つまり、恋愛からスタートするのではなく、結婚を前提とした交際から恋愛がスタートする傾向の増加と考えられよう。中国人留学生の場合、この傾向が一層強いのではないだろうか。今後の検討課題である。

④結婚相手に対する希望条件

日高（1995）⁷⁾による女子短大生を対象にした調査では、「人柄」が79.8%と大多数を占め、2位の「経済力」の12.9%を大きく引き離している。しかし、最近の疋田（2008）⁵⁾による報告では、希望条件は女子大生、女子短大生ともに①性格（それぞれ32.5%、31.9%）、②価値観（それぞれ25.2%、24.6%）、③経済力（それぞれの21.4%、24.3%）の順であったが、男子大生では①性格（32.4%）、②容姿（28.8%）、③価値観（28.2%）の順番で、2位に「容姿」を希望していた。

本調査では、日本人女子大生は「人柄」「経済力」「家事育児」の順に希望しているという結果になった。「経済力」や「家事育児」を求める程度が増したことは、一方で「性別役割分業」に反対しておきながら、他方でその恩恵に与りたいという矛盾した欲求の表れともとれる。これに対し、中国人の女子留学生は「性格」「共通趣味」「経済力」で、ほぼ疋田による日本人女子大生のデータと類似している。「経済力」が3番目に位置することは、中国人女子留学生もまたある程度、男性に経済的な面で期待していることを示唆して

いる。他方、日本人男子大生は「人柄」の次に「容姿」を重要視しているが、中国人男子留学生は「人柄」の次に「共通趣味」を重視している。これは中国人留学生の「人生を楽しむ好奇心や積極性に富む」性格像（柴原ら、2012⁴⁾）と関係があると思われる。

⑤子どもを希望するか否か、希望する場合の子ども数

国立社会保障・人口問題研究所（2011）の発表によると、未婚者が今後持ちたいと希望する子どもの数は男性で平均2.04人（20歳～24歳では2.09人）、女性で平均2.12人（20歳～24歳では2.20人）であった。これに比べると日本人の男子大生2.36人、女子大生2.43人と多い。調査対象が福祉系の大学生であるため、卒業後の就職率が比較的良く、ある程度安定した生活が望めるのではないかという期待やボランティア精神が影響しているのかもしれない。

また、一人っ子政策を掲げている中国で、留学生の男性が1.89人、が女性1.95人の子どもを希望しているのは、その政策に対する反動としての彼らの欲求の表れとみなすことができる。また、中国では少子・高齢化社会への対策として「夫婦のどちらか一方が一人っ子の場合、2人目の子供を産むことができるようになる」方針を2013年に発表しているが、このような社会的情勢も影響を及ぼしているのではないだろうか。

⑥「結婚」に対する連想語、およびあなたにとって結婚とは何か

日高（1995）⁷⁾の調査報告によると、「なんといっても女の幸福は結婚にあるのだから結婚した方がよい」と答えた女子短大生は12.1%、「精神的にも経済的にも安定するから結婚する方がよい」が68.1%、「独り立ちでき

れば、あえて結婚しなくてもよい」が9.3%であったという。この安定志向を求める傾向は保育学専攻の女子大生にもみられる（金子・上田・石田，2011¹⁰⁾）。また、篠原（2011）¹¹⁾による調査では、2000年には男性の約30%、女性の約40%が「結婚こそが幸福である」という考えに反対であったが、2010年には反対意見が男性で約17%、女性で約14%増加したこと、若い人ほど、また男女とも高学歴であるほど反対する傾向が強いことなどが報告されている。この「結婚」が必ずしも「幸福」の条件ではないことは筒井（2010）¹²⁾によっても確認されている。

本論文において、「結婚こそが幸福である」という質問項目に対して賛成か反対かを回答させるのではなく、「結婚」に対する連想語および「あなたにとって結婚とは何か」を記述させることで結婚と幸福の関連性を調べた。その結果、全体的にみれば「結婚」から連想する言葉は「幸福」あるいは「幸せ」が最も多く、「家庭」や「家族」がこれに続いた。特に、日本人大学生に比べて中国人留学生の方がこの傾向は強い。また、「結婚とは何か」という問いに対する記述に「幸福」や「幸せ」という単語が出現する割合も中国人留学生の方がやや高い。このことから、中国人留学生の結婚観には「幸福」や「幸せ」が重要な位置を占めることが分かった。これに対し、日本人大学生の場合は「結婚」に対する「幸福」の比重はやや軽くなっているが、男子大生でこの傾向はやや強い。彼らが結婚生活における多様なライフスタイルを模索している可能性を示唆していると言えよう。

おわりに

これまでの日本人を対象とした研究から、①男性は「ある年齢までには結婚する」考えを持っているが、女性は「理想の相手が見つかるまでは結婚しない」傾向があること（堀・山根・遠藤，1990¹³⁾）、②「平等志向」が現代の女性の特徴であることから、結婚後も経済的自立を志向し、「仕事への理解と協力」をおしまない男性を結婚相手に求める傾向が強いこと、③この理想と現実とのギャップにより、ますます結婚適齢期意識が薄れ、晩婚化に拍車がかかることなどが指摘されている（中井，2000¹⁴⁾）。しかし、福祉系大学生を対象とした今回の調査結果では、これらのことが必ずしも当てはまるとはいえないようである。むしろ、中国人留学生の方にややこの傾向がみられた。

それは、福祉系の日本人大学生および中国人留学生を調査対象にした柴原ら（2011³⁾，2012⁴⁾）の報告にあるように、日本人大学生の場合、彼らの現状に満足し、従順で素直であるが主体性に欠け周囲に合わせようとする性格特徴が、やや保守的な結婚観として現れているためと予想できる。逆に、中国人留学生では、留学生であるがゆえに好奇心が旺盛で積極性に富み、人生を楽しみつつ自分自身の存在価値を高めたいという欲求が強く、これがいわゆる現代における日本人の結婚観と比較的一致するのではないだろうか。

参考文献

1. 柏木恵子，大野祥子，平山順子：家族心理学への招待. ミネルヴァ書房，2006

2. 柏木恵子:家族心理学. 東京大学出版会, 2003
3. 柴原直樹, 遠藤正雄, 石井恒生:日本人大学生と中国人留学生における生きがいの比較. 近畿医療福祉大学紀要, 12, 2, 67-74, 2011
4. 柴原直樹, 遠藤正雄, 石井恒生:日本人大学生と中国人留学生における自我状態の比較. 近畿医療福祉大学紀要, 13, 2, 79-86, 2012
5. 疋田京子:大学生の恋愛観・結婚観に関する意識調査, 鹿児島県立短期大学紀要, 59, 107-124, 2008
6. Hochschild, A.; The Second Shift. Canada, Viking. 1989
7. 日高洋子:学生の職業観・結婚観・家族観に関する調査報告-横浜女子短期大学学生意識調査-, 横浜女子短期大学研究紀要, 第10巻, 59-66, 1995
8. 安藤喜代美:家族機能に関する調査:男女の役割に関する学生の意識, 名古屋女子大学紀要, 第48号(人文・社会編), 37-45, 2002
9. 加藤千恵子・齊藤兆吉・林洋一・堀井清之:日本人男性の結婚観・仕事観-ウェブレット多重解像度解析-, 可視化情報学会論文集, 第21巻11号, 138-143, 2001
10. 金子幾之輔・上田一稔・石田綾子:女子大生の結婚観について-保育学を専攻する学生への質問紙調査を通じて, 梅花学園大学人文学部研究紀要, 13, 52-59, 2011
11. 篠原さやか:日本における結婚観の変化-JGSS 累積データ2000-2010を用いた分析, 日本版総合的社会調査共同研究拠点 研究論文集12, JGSS Research Series No.9, 2011
12. 筒井淳也:結婚観についての意識のズレと誤解(佐藤博樹・永井暁子・三輪哲編「結婚の壁:非婚・晩婚の構造」). 勁草書房, 110-126, 2010
13. 堀洋道・山根一郎・遠藤公久:大学生の結婚に対する意識(2)-結婚観について-, 筑波大学心理学研究, 第12巻, 93-100, 1990
14. 中井美樹:若者の性役割観の構造とライフコース観および結婚観, 立命館産業社会集, 第36巻第3号, 117-127, 2000

注

注 1)

<http://www.meigensyu.com/tags/view/1109/page1.html> 参照

注 2)

ただし、毎日新聞 2013年11月16日 の朝刊に、「中国共産党は15日、国営新華社通信を通じて第18期中央委員会第3回総会(3中全会)で採択した『改革の全面的な深化における若干の重大な問題に関する決定』の全文を公表し、人口抑制策として1979年に導入した『一人っ子政策』を緩和する方針を明らかにした。夫婦のどちらか一方が一人っ子の場合、2人目の子供を産むことができるようになる。」と記されている。

資料1－アンケート用紙

大学生の結婚観についての調査

1. あなたは将来、結婚したいと思いますか？
①結婚したい ②どちらかといえば結婚したい ③どちらかといえば結婚したくない
④結婚したくない ⑤既婚者である
2. あなたが結婚したいと思う年齢はいくつですか？
①20歳未満 ②20歳～24歳 ③25歳～29歳 ④30歳～34歳
⑤30歳～39歳 ⑥40歳以上 ⑦すでに結婚している（____歳で結婚）
3. 夫婦間で家事・育児の分担はどうあるべきだとお考えですか？
①妻が全て行う ②主に妻が行うが夫も少しは手伝う ③半々
④主に夫が行うが妻も少しは手伝う ⑤夫が全て行う
4. あなたは、性別役割分業(男は仕事で女は家事・育児)の考え方に賛成ですか、反対ですか？
①賛成 ②反対
5. 女性の方にお尋ねします。結婚後の仕事についてどのように考えですか？
①定年まで続ける ②子供ができれば辞める
③続けたいが仕方なく辞める ④仕事を辞め専業主婦となる
⑤その他（_____）
6. あなたにとって、結婚の相手は恋愛の相手と同じである（あるべきだ）と思いますか？
①同じ人であると思う ②違う人であると思う
7. 結婚相手に対する希望条件は何ですか？以下の中から上位3位までを順番に選んでください。
「学歴」 「職業」 「経済力」 「人柄」 「容姿」 「共通趣味」 「仕事理解」
「家事育児」 「その他（具体的に記述）」
①_____ ②_____ ③_____
8. あなたは将来、子供が欲しいですか？
①欲しい ②どちらかと言えば欲しい ③どちらかと言えば欲しくない ④欲しくない
9. 子供は何人ぐらいが適当だとお考えですか？
_____人
10. あなたは、「結婚」と聞いて最初にどんな言葉が心に浮かびますか？その最初に浮かんだ言葉（連想語）を1つ書いてください。
（_____）
11. あなたにとって「結婚とは何か」お答えください。

資料2－結婚相手に対する希望条件

日本人男子大学生					
第1位		第2位		第3位	
人柄	28	容姿	10	容姿	11
家事育児	5	人柄	8	家事育児	9
職業	3	家事育児	7	共通趣味	6
共通趣味	3	仕事理解	7	仕事理解	5
容姿	2	共通趣味	6	人柄	5
経済力	1	経済力	2	経済力	4
仕事理解	1	子供好き	1	愛情	1
相性	1	職業	1	学歴	1
		学歴	1	口が悪くない	1
		愛	1	子供好き	1

日本人女子大学生					
第1位		第2位		第3位	
人柄	29	経済力	16	家事育児	11
経済力	8	仕事理解	5	経済力	11
家事育児	1	人柄	5	共通趣味	4
共通趣味	1	容姿	4	仕事理解	4
自信家	1	共通趣味	4	容姿	4
		家事育児	3	人柄	2
		職業	2	理解力	1
		純粹	1	職業	1
				家族サービス	1
				親を大切	1

日本人大学生と中国人留学生の結婚観の比較

中国人男子留学生					
第1位		第2位		第3位	
人柄	18	共通趣味	14	共通趣味	9
共通趣味	11	容姿	10	容姿	8
容姿	6	仕事理解	5	家事育児	6
経済力	3	家事育児	5	仕事理解	5
学歴	2	職業	4	経済力	4
心	1	経済力	1	人柄	4
職業	1	人柄	1	職業	2
家事育児	1			責任感	1
				学歴	1

中国人女子留学生					
第1位		第2位		第3位	
人柄	21	共通趣味	13	経済力	11
経済力	7	人柄	7	共通趣味	8
共通趣味	4	経済力	9	容姿	4
仕事理解	2	容姿	3	職業	4
職業	2	家事育児	2	仕事理解	3
学歴	1	職業	1	家事育児	2
		学歴	1	人柄	2
				共通価値観	1

資料3- 「結婚」に対する連想語

日本人大学生					
男性 (43名)			女性 (39名)		
連想語	人数	%	連想語	人数	%
愛	11	25.6	幸せ	10	25.6
家庭	7	16.3	家庭	9	23.1
子ども	3	7.0	結婚式	2	5.1
結婚式, 人生, 幸せ	各2	各4.7	離婚, 安心, 責任 信頼, 新しい生活 彼氏, 花, 協力 明るい未来, 妥協 共同生活, 束縛 人, おめでとう 大人, 我慢, 苦 お金がかかる	各1	各2.6
同居, 生活, 永遠 新たな一歩, 契約 一緒になる, せな 家族旅行, 共に生きる 共同生活, 支え合い 家計は火の車 面倒くさい, 責任 第二の人生, 相互理解	各1	各2.3			

中国人留学生					
男性 (37名)			女性 (32名)		
連想語	人数	%	連想語	人数	%
幸せ	11	29.7	幸福	14	43.8
家族	6	16.2	家族	3	9.4
子ども, 生活 いつまでも	各2	各5.4	愛情, 生活 子ども, したい 自由がない	各2	各6.3
遠い, 好きだから 彼女, 素晴らしい 苦勞する, 神聖 経済力より健康 疑問, セックス, 愛 ややこしい, 安定 創業後, 家	各1	各2.7	まだ早い, ドレス 信頼, 指輪, 経済	各1	各3.1

日本人大学生と中国人留学生の結婚観の比較

資料4—あなたにとって結婚とは？

日本人大学生男子 (37名)	日本人大学生女子 (36名)
家族	幸せ
新しい家族	幸福
自分より大切な家族の構築	新しいスタート
家庭を作ること	新たなスタート
明るい家庭を作るために必要なこと	新たな人生のスタート
子孫を残し幸せな家庭を築くこと	ゴールでありスタートでもある
人生	ゴールと出発点
第二の人生	恋のゴール、愛のスタート
ライフコースの1つ	楽しい人生を送るための分岐点
人生の分岐点	一生が決まる人生の分岐点
人生の節目のひとつ	人生の折り返し地点
人生の大切なポイントのひとつ	自分の新しい家庭を作る
人生で1回だけするもの	人生を充実させる家庭の構築
過程のようなもの	新しい自分の家族が増える
自分の人生の幅を広げること	個人の自由に制限があるが、幸せな家庭を築く
自分の今後の人生を楽しくするもの	血の繋がりのない家族が幸せになること
楽しいもの	パートナーと共に歩いていく人生の始まり
人生の中で一番の幸せで新たな生活の始まり	お互いを高め合うもの
幸せになるための出来事	苦難を乗り越え、信頼し合う共同生活
幸せでもあり責任である	家庭を持つ責任と信頼、支え合い
一生の宝物	共に成長できる場を提供
Oh my トレジャー	一生をともしにする夫との生活の始まり
あこがれ!	相手を支え、また自分を支えてもらうこと
ただひとりを愛してあげること	人生におけるパートナーシップ
支え合い愛しながら一緒に生きていくこと	一生もの
助け合い共に生活する	一生を決めること
信頼しあえる人との幸せな生活	人生そのもの
一生涯共に生きていく	子どもの頃からの夢
好きな人との共同生活	ある意味将来の夢
安定した暮らし	すてきなこと
新たなスタート	あこがれているもの
新たな一歩	大人になること
大人になること	人生を変えられる大きな進歩
人間的にある程度落ち着くこと	人生で最大のイベント
契約	生涯の契約
永遠のしほり	妥協の連続
不自由	

中国人留学生男子（32名）	中国人留学生女子（34名）
幸せ	幸せ
幸せ	幸せ
幸せ	幸せなこと
幸せ	自分の幸せのため
幸福のため	幸福
幸福な生活	幸福
幸福な生活	幸福
幸福な生活	幸福な家庭
愛する人との生活	幸せな家庭を作る
愛する人との生活	幸せな家庭の構築
大切な人との生活	一緒に頑張っって幸せをつくるためのもの
兩人一緒に生活	家族が増える
二人で生活していくこと	二人の家族を合わせること
助け合い共に生活する	家庭が明るくなる
家庭を作っって幸せな生活をする	共に家族を築くこと
家庭	家庭を持ち独立
家庭を作る	好きな人との共同生活
自分の家庭を作ること	好きな人との共同生活
末永く家族でいる	愛する人との生活
家族団らん	愛する人との生活
責任	愛する人との幸福な生活
責任	助け合い末永く共に生活する
責任	嬉しいことを味わいながら共に末長く生きる
責任	2人で暮らすこと
生活と責任	兩人の愛情が深まる
幸福と責任感	世話になること
恋愛の結果	人生後半の依頼
愛	新しい人生のスタート
人生の重要な一部分	生活
一生のこと。家庭・子供・妻・協力・永遠の愛	生活
安定	責任
当たり前	責任
	責任
	多少の恐怖感